

調査の概要

【目的】

中学校学習指導要領の次期改訂に資するため、今次改訂の改善事項を中心に、各教科等の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況について調査研究を行い、検討の基礎となる客観的データ等を得るとともに、教育課程の基準に係る課題の有無及びその内容等を検証・総括する。

【時期、対象学年及び教科等】

○調査時期：調査①令和5年11月1日（水）から令和5年12月22日（金）

（音楽、美術、技術・家庭、保健体育、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動）

調査②令和6年1月22日（月）から令和6年3月19日（火）

（国語、社会、数学、理科、外国語（英語）、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動）

○調査対象：国公立及び私立中学校 1,356校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程含む） ※全学校の約13.2%、無作為抽出
実施生徒数（延べ） 159,150人

○内容：各教科で、①今回の改訂の基本方針に関する事項、②各教科等の主な改善事項（今回の改訂で新設された事項、学年及び学校種を超えて移行した事項）、③従来、課題とされている事項の視点に基づくペーパーテスト調査を実施するとともに、一部教科で実技調査を実施。あわせて、生徒、教師、学校長を対象とした質問調査をオンライン形式にて実施。

・ペーパーテスト調査：第1～3学年 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、保健体育（体育分野、保健分野）、外国語（英語）

・質問調査（学校）（生徒、教師）：第1～3学年 特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動

・実技調査：第3学年 美術、技術・家庭（家庭分野）、保健体育（体育分野）、外国語（英語）

（主なポイント）

各教科のペーパーテスト調査の結果から

○必要な情報を資料から読み取ることについては成果が見られるが、読み取った情報を整理してまとめることや、そこから自分の考えを表現すること、情報を基にその原因や理由を説明することについては課題があると考えられる。

○基礎的・基本的な知識の理解は進んでいるが、知識と関連付けて表現することや、分析的・総合的に物事を捉えることについては課題があると考えられる。

特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動の質問調査の結果から

○基本的に多くの設問において生徒の肯定的な回答の割合が高く、これらの教科・活動等に対する生徒の高い意欲がうかがわれる。

令和5年度 中学校学習指導要領実施状況調査について（ペーパーテスト調査等）

ペーパーテスト調査等の概要

● 調査実施校：中学校 1,356 校 実施生徒数 159,150人（延べ数）

※1教科1問当たり、3,600人程度の調査結果を得ることができるよう、調査対象を無作為抽出した。

● データを見るにあたって

○「1. 主な改訂のポイント」「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」「3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性」「4. 調査問題例」の4構成と「4」に対応する問題を別紙（問題例）で添付。

○「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」中の赤字部分は「相当数の児童ができている」もの、青字部分は「課題があると考えられる」もので、下線が付されているものは、「4. 調査問題例」及び別紙において問題例（質問項目例）が示されている。

※実技調査については、対象教科（美術、技術・家庭（家庭分野）、保健体育（体育分野）、外国語（英語）のペーパーテスト調査を実施する抽出校の中から調査を実施する学校を抽出。（1教科当たり350人程度：10校程度）

令和5年度 中学校学習指導要領実施状況調査の結果について（総合的な学習の時間）－質問調査版－

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 総合的・横断的な学習を通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指すことを明確化。
- 探究の過程（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）のうち、「整理・分析」と「まとめ・表現」に課題が見られたことを踏まえ、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動（「考えるための技法」の活用を含む。）等を明確化。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 生徒質問調査では、前回調査で課題とされていた「整理・分析」「まとめ・表現」は、今回調査では肯定的な回答がそれぞれ75%以上である。探究の過程に関する質問項目は前回調査の類似質問の結果と比べて改善傾向が見られる。
- 教師質問調査では、ほとんどの項目において肯定的な回答が70%以上であり、特に、他者と協働して主体的に取り組む探究的な学習に関する質問においては肯定的な回答のうち「そうしている」の割合が45%程度であり、他の項目と比べて高い。小学校との接続を意識した年間指導計画の作成に関する質問においては肯定的な回答のうち「そうしている」の割合が10%程度であり、他の項目と比べて低い。
- 総合的な学習の時間の全質問項目と共通質問における自己肯定感、協働、粘り強く課題に取り組む態度、筋道を立てて考えること、情報の収集・活用に関わる質問に相関が見られる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

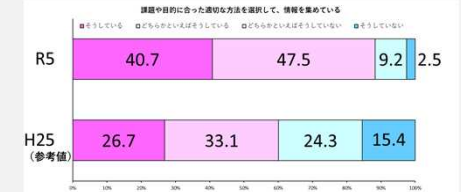
- 指導上の改善点
 - ・目標及び内容、学習活動などが、中学校の学年に応じて発展していくことができるよう、指導計画の作成等にあたり、学校種間、学年間の連携を図る。
 - ・各教科等の資質・能力や学習の基盤となる資質・能力を活用・発揮できるように、指導と評価の一体化の一層の充実を図る。

4. 調査結果例（質問調査 中学校/生徒）

課題の設定（第3学年）



情報の収集（第3学年）



整理・分析（第3学年）



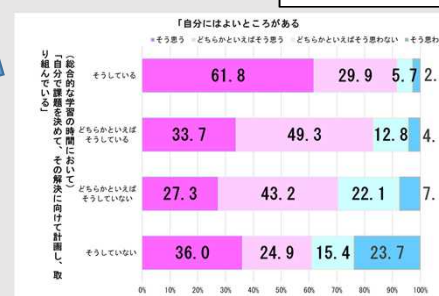
まとめ・表現（第3学年）



「課題の設定」と「自己肯定感（自分のよさ）」に関わる質問とは相関がある（第3学年）

※他学年も同様

相関係数 0.35



「まとめ・表現」と「自己肯定感（自分の成長）」に関わる質問とは相関がある（第3学年）

※他学年も同様

相関係数 0.39

